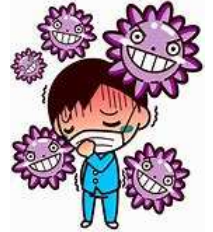


*** 今日の健康 (11月) ***

<2020-2021 今期のインフルエンザの流行は??>

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の流行が続く中、今冬はインフルエンザと COVID-19 の同時流行が懸念されています。両疾患は感染力が強いため症状から鑑別することは困難とされているので注意が必要です。

今期のインフルエンザは例年に比べて患者数が少なく推移しています。インフルエンザシーズン開幕期第 36 週 (8 月 31 日～9 月 6 日) について、この数年、夏季にインフルエンザ流行が見られていた沖縄県は、昨年の沖縄県のインフルエンザ流行は第 36 週時点で既に、警報レベルの目安である定点 30 人を超えて例年のない患者数でしたが、今年の夏以降、定点当たり 0 人台が続いており、第 31 週の定点当たり 0.1 人が最高で、ほぼ定点当たり 0 人台で推移しています。



全国的にも感染者はほとんど出でおらず、全国の定点医療機関から報告される患者数は、暦の上でのシーズン開幕である第 36 週以降、第 40 週 (9 月 28 日～10 月 4 日) まで定点当たり 0 人で推移しており、定点から報告された患者数は、第 36 週から第 40 週まで 3 人、4 人、4 人、7 人、7 人と推移し、累計で 25 人にとどまり流行の兆しは見えていません。

この理由として COVID-19 対策で、感染拡大を防ぐため 3 密 (密閉、密集、密接) を避ける行動に加えて、マスク着用や手指消毒・手洗いの励行、ソーシャルディスタンス確保などの対策が推し進められており、これがインフルエンザの流行防止にも効いていると考えられています。

では、東京の現時点 (43 週 10 月 19 日～10 月 25 日) はどうかというと、昨年の同期間に定点医療機関から報告された人数は 284 人でしたが、今年は 2 人の報告数に止まっています。昨年の 10 月報告者数は 1834 人、今年は 4 名 + 最終週の人数となります。

日本の夏にインフルエンザの流行期だった南半球は、WHO の報告「Influenza update-377」によると、南半球はもとより世界のインフルエンザ流行は散發的かほとんど発生していません。例えば、COVID-19 の流行が続くブラジルでも、インフルエンザの流行は報告されていません。

こうした現状を見るに、今季の日本のインフルエンザ流行は、あっても小規模で済むのではないかとの楽観できそうですが、国内外ともに患者が全く出ていないわけではない点には留意する必要があります。また、今後、水際対策が緩和され、海外との人の往来が盛んになることを考えれば、インフルエンザウイルスの持ち込み例が出てくる可能性は否定できないので、今季もインフルエンザ流行はあり得るとの前提で、ワクチン接種などの予防策を進める必要があります。

参考情報 WHO, Influenza update-377、東京都感染症情報センター

前澤クリニック 内科・小児科 0422-30-2861

天文台通り多摩信用金庫のななめ裏